



ワールドカップのフトコロ事情



私は以前勤めていた会社(旧T海上火災)で、2002年FIFAワールドカップ日韓大会の日本組織委員会(JAWOC)のアドバイザーとしてその保険手配に関わった。そこで、今日は、ワールドカップの主催団体である国際サッカー連盟(FIFA)と組織委員会(JAWOC)の関係について、そのフトコロ事情を軸にして触れようと思う。

スポンサーには、FIFAのスポンサー(オフィシャル・パートナー、2002年大会では15社)と、開催国組織委員会の国内限定スポンサー(オフィシャル・サプライヤー)からなるのだが、2002年では日韓の組織委員会が募集出来るのは、FIFAスポンサーとは業種が重複しない、それぞれ6社だけで、例えばキリンは日本サッカー協会の有力なスポンサーなのだが、バドワイザーがFIFAスポンサーとなってしまっていたので、キリンはJAWOCスポンサーになることは出来なかった。FIFAスポンサーは通常複数年契約で、スポンサー料も1社あたり百億円以上(現物給付を含む)であるにも関わらず、引く手あまたであるのに対して、JAWOCスポンサーは1社あたりせいぜい10-20億円程度に過ぎず、それでも募集に難渋し、結局、私が勤める会社にまで呼びがかかり、JAWOCからいただいた各種損害保険料はほぼそのままスポンサー料としてお返しすることになってしまった。このようにさまざまな局面で、大会運営費用捻出にあくせくする貧乏所帯のJAWOC(困みにその構成員は要所に配置される自治・文部・外務各省派遣のお役人を除けば、多くが関係する企業や開催地自治体からの出向者などでそのほとんどが手弁当)と裕福なFIFAの対比は際立っていた。

当時は、それまでの世界的なスポーツ・イベントの放映権売却・スポンサー募集をほぼ牛耳っていたISL(International Sports & Leisure、日本の電通も有力な出資者だった)が、創業家であるダスラー家(アディダスの創業家でもある)の内紛で瓦解寸前であってその独占状態が崩れ、FIFAが自前のマーケティング会社を設立するなど、直接関与を強めていた時期で、この結果、放映権料なども著しく高騰し、2002年大会では1600億円を超えと言われた。しかし、この放映権料収入はFIFA独占で、日韓組織委員会が手にすることが出来たのは、2カ国共催のため半減してしまったチケット収入などを補填し、組織委員会収支の赤字化を回避するための補助金百億円程度に過ぎなかった。

いかなる保険をどのように手配するかは、FIFAとの協議事項であったため、私もチューリッヒにあるFIFA本部には何度か足を運んだのだが(ホテルと本部の間はFIFA手配の運転手付きベンツで移動)、当時、FIFAは潤沢な余剰金でチューリッヒ湖を眼下に見下ろす斜面に建つ瀟洒なホテルをまるごと買い取って、その本部としており、同時通訳機能付き大会議室は当然としても、ホテル付属の瀟洒なレストランもスタッフごとそのまま維持されていた。このレストランでは何度か食事をする機会に恵まれたのだが、いずれもミーティング中途のランチであったため、折角その費用はFIFA持ちというのに、垂涎のワイン・リストを賞味出来なかったことは、かえすがえす残念である。

守屋 悦男

榊原康範先生をお招きした 「ママの会」レポート！！

親子で楽しめる様々なテーマを盛り込んで開催しているママの会。6月は「親子で絵を楽しむ」をテーマに、画家の榊原康範先生を講師としてお招きしました。

先生が登場すると、子供達は楽しいことが起こる予感に心ウキウキ。先生のお手本を見てお話をよく聞いてなんてプロセスはなし、子供達は絵の具を見るなり、さっそく目の前の画用紙に思い思いの絵を描き始めました。先生は無我夢中で絵筆を走らせる子供達をまわってお家でのお絵描きのアドバイス、画材の使い方などを指導してくださり、子供達に話しかけ、さらに創造力を掻き立てていただきました。

お絵描きに集中すること、ましてや絵筆で水彩絵の具を操ることなど到底無理だろうと思っていた13ヶ月の我が息子も、画用紙に色がどんどんのっていく様に夢中になっているのにはビックリ！幼い子に水彩絵の具を上手くかわせるコツも教えていただき、(全身絵の具だらけになりますが)どんどんやらせてあげる自信ができました。

お絵描きタイムの後のレクチャーでは、親子で絵を楽しむ数々のヒントを伝授して下さい、充実した一時を過ごす事ができました。榊原先生、本当にありがとうございました！

「ママの会」 毎月最終月曜日開催
お問い合わせ 幹事 時任 佐絵子
stokito@hawaiiant 687-6197

